

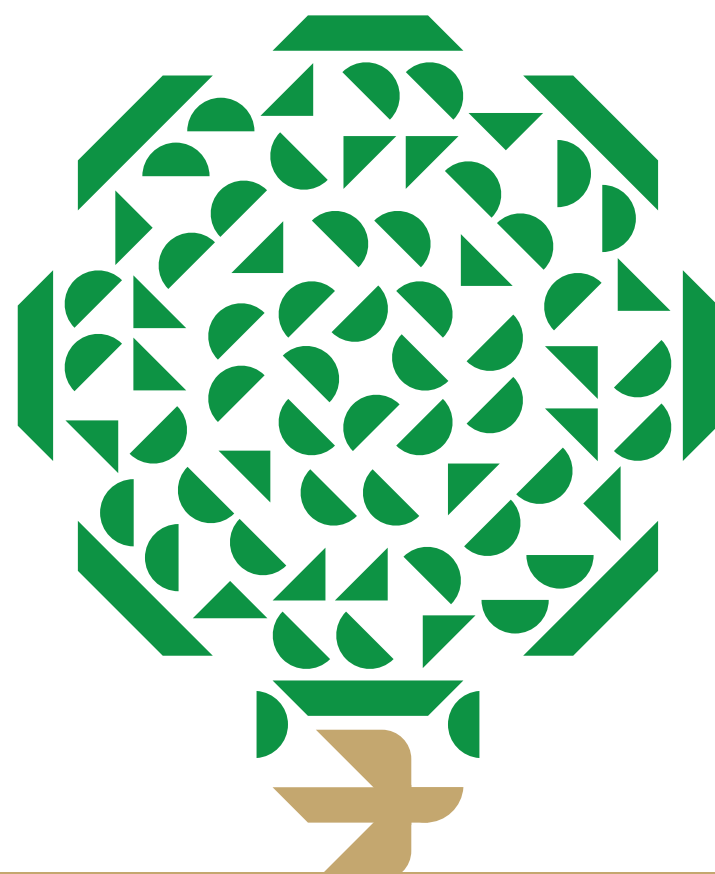
北海道大学 学芸員

リカレント教育

プログラム



木になり
鳥になり



完了報告 ミニパネル展

文化庁の助成を受け、
二〇一八年度から開催してきた
北海道大学学芸員リカレント教育プログラム。
このたび、二〇二〇年度をもって
当初予定していた活動を無事に
終了することができました。

地域文化のリーダーである
ミュージアム学芸員を主な対象者として、
新しい学び直しの場を提供しようと
始まったプログラムでしたが、
ふたを開けてみれば、
わたしたちの予想をはるかに越えて、
さまざまな受講者が集まりました。

現役の学芸員はもとより、
図書館司書やそのほかの文化施設の職員、
一般企業にお勤めの方や複数の大学の大学院生、
さらには、
自分でマイクローブラリーを運営する方、
全国的に活躍するミュージアムグッズ愛好家、
地域文化を研究する元学芸員などなど、
数多くの方々に参加していただきました。

この多様な受講者に、
さらに多彩な顔ぶれの講師陣が加わります。
ミュージアムの館長や学芸員、
美術商や関連業者、
保存修復の専門家や
ファシリテーションの専門家などなど。
これまでに登場した講師やゲストスピーカーは
50人近くにのぼります。

たくさんの方が縁あって集まり、
ともに学び合った3年間は、
大学と社会との今後の関係を考えるうえでも、
社会人のリカレント教育を考えるうえでも、
そして何より学びとはそもそも何なのかを
立ち止まって問い直すうえでも、
貴重な時間となりました。
支えてくださったすべての皆様に感謝しつつ、
今回は、パネル展のかたちでプログラムを
振り返ります。

